

ほんとしていそがせ給、女房なにわざをせんといひおもひたれど、このたびのことには、ものぐる
 ほしく、さまあしき事なくてたゝうるはしうとの給はするに、略○中 關白どの頼通藤原の大饗は廿
 日なるべし、このみやのは廿三日とさだめさせ給て、われもくゝをとらじまけじと、急ぎの、ま
 りたり、略○中 かくてびは殿のみやには廿二日のよさり、廿三日のあかつきなどに、ぞさとの人々
 まゐりこむ、廿二日に、寢殿の東のたいなどの御装束、關白殿の大饗にことにかはるべきにもあ
 らねど、御ひき出物の程かはる、又上達部のはじめは、東の對につかせ給て、のちは御まへの南お
 もてのすのこにこそはおはすべければ、さやうの事こそかはるべき、其日になりぬれば、日ごろ
 いつしかとまちおもひたりつる、わかき人々はまた人のきぬのいろにほひにやをとらん、まさ
 らんのいどみむねさわがしかるべし、略○中 扱まゐりこみぬれば、寢殿のみはしのまに、御几帳う
 るはしくたてさせ給て、そのにしのみよりわた殿より、又にしに對東、南おもてまで、ひとまにふ
 たりづゝゐたり、みはしの東のかたより東ざまにをれて、水のうへのわたどのまでゐたり、かす
 は、えらすおしはかるべし、關白殿參らせ給さま、御隨身おどろくゝまうめでたしと見る程に、小
 野宮のおと、實資藤原のまゐり給ふをみれば、略○中 まづ東のたいのもやに、西むきにつきたまへ
 り、殿上人は南のひさしにつきたり、もやはみなみをかみにし、ひさしはにしをかみに、えたり、事
 どもと、のほりぬる程に、みなれいさほうにて、略○中 拜禮はて、左大臣にてこの關白殿おは
 しませば、それをさきとして、いとうるはしうのどかにあゆみて、寢殿の東おもてのみはしより
 のぼり給て、南の階の東西を一の座にて、關白殿つぎに、小野宮の右のおと、つき給ひぬ、つぎに
 中宮大夫などさしつゝ、きなみゐらせ給ぬ、略○中 おはしましゐて、このみすぎはをたれも御らん
 じわたせば、このにようばうのなりどもは、やなぎ、さくら、やまぶき、かうばい、もえぎのいつい
 をとりかはしつゝ、ひとりに三いろづゝをさせ給へるなりけり、ひとりはひといろをいつ